

活動報告書

報告者氏名：伊藤 守

所属：都立光明特別支援学校

記録日：2013年2月18日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年：中学部二年
- ・ 障害名：不明
- ・ 障害と困難の内容

障害名については、2月14日現在、正式な診断はおいていない（脳性まひではないようである）。発語も可能ではあるが、不明瞭である。また、手書き文字も大きな文字なら書くことは可能であるが、将来的にどのような学習環境がいいのか、担任など、本人とかかわっている他の先生方と連絡をとりながら、私自身が週一回担当している理科の授業の中で、最適な学習環境を模索した。まず、すでに学校に導入されている ICT 機器のフィッティングから始め、その一環の中で、iPad の特性をどのように活かせるか検討を加えた。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい

「一年生の2学期末から本人持参の iPod Touch を支援ツールとして模索してきた」との前年度担当者からの申し送り事項を受け、iPad の特性をどのように活かせるか検討を加えた。

- ・ 実施期間

プロジェクト開始 2012年6月から、週一回、理科の授業の中で試用した。

- ・ 実施者

伊藤守（非常勤教員）

- ・ 実施者と対象児の関係

理科担当教員（週4時間ある理科のうち1時間）

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・ 対象児（群）の事前の状況

生まれてから外国での生活が長かったこと・発語が不明瞭なことなどから、周囲からの問いかけに対して自分自身の意思を明確に示すことなく、笑ってごまかすような場面も多かったように思われる。

- ・ 活動の具体的内容

週一時間の理科の授業の中で、教員からの一方的な話しかけ・問いかけだけでなく、本人自身が情報発信できる環境の構築を模索した。その中で、iPad の特性をどのように活かせるか検討を加えた。

- ・ 対象児（群）の事後の変化

教員の話の聞いている場面、特に抽象的な話の場面ではあくびをもらす場面も多く見られたが、本人自身が作業する場面では、意欲的に、時にいたずら？なども交えながら積極的に活動に参加するようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

- ・ 主観的気づき

本人自身が操作する学習環境としては、本人の両手の可動域などを考えると、iPad よりは、学校ですでに導入している Windows の環境（ソフトウェアキーボード（ディスカバープロをスクリーンモードで使用）に対して JOYSTICK ROLLER と押しボタンスイッチを使って入力。下の写真参照）の方が適していると思われる。しかし、起動が速いこと・機動性に富むことなどから、教材提示の観点からは、iPad の方が優れているように思われる。その後、iPad よりは一回り小型の iPad mini が発売されたので、これについてはさらに検討を加えてみたい。

- ・ エビデンス（具体的数値など）

本人に使用感を 5 段階評価で聞いてみた。

面白度・楽しさ度：5

分かり度：5

コメント：おもしろい



2月7日に行われたテレワーク体験での入力作業の様子

- ・ その他エピソード（画像などを含めて）

本人に iPad の試用感を聞く一週間前、学校でテレワーク体験という、卒業後の進路を考えるための体験講座（PC を使ったデータ入力）を行ったが、そのときの本人の評価は、面白度・楽しさ度：1、分かり度：4 であった。

その一週間後、iPad の評価をしてもらうために、その試用感をもう一度振り返ってみるために（授業の中で自身の筆記具としては上述した Windows 環境のものを使用するようになっている）簡単な説明をしてからアプリを動かしてみた。その最後に別の教員が担当している理科の授業で図書館から借りて読んだという「元素図鑑 The Elements in Japanese」の iPad バージョンを紹介し、一緒に元素の歌を聞いた。その影響もあって高評価が出たのかもしれない。授業者（教育者）の立場からは、本人が自身で操作することが決定的に大事な場面がある・・・そう思うのだが、それにもまして「内容がよいものなら話は別だ」ということなのかも知れない。

この生徒の評価にあたった外部専門家の方からは、「アプリを使った即時的な表記方法では、ドロップトークのようにスライドとポインティングを繰り返して、シンボルによる文構成の方が操作的には簡単かもしれません」というコメントが出された。上述した iPad mini の試用も含めて、引き続き、本人がより意欲的に取り組める学習環境の構築を模索していきたいと思う。

2月28日追記：その後、担任の先生の iPad mini のトーキングエイド・テキストを試用させて頂く機会を得た。最初若干とまどいも見られたが、短時間のうちに実用レベルの段階に達した。トーキングエイド・テキストにはシンボルの画面もあり、本人もお気に入りのようなので、今後の展開が楽しみである。